

保健体育科学習指導案

活動場所 吉田南中学校 体育館
生徒数 2年3組 男子 20名 計38名
女子 18名
指導者 教諭 岩城靖一郎, 福田信也

1 単元名 「バレーボール」

2 単元について

(1) 一般的特性

- ア ネットをはさんで相対する2チームが、パス、サービス、レシーブ、トス、スパイクといった技能を用いて攻防を展開し、得点を競い合う集団的スポーツである。
- イ 攻防の仕方を工夫し、相手チームと勝敗を競うところに楽しさがある。
- ウ チームワークの高まりによっては普段以上の力を発揮し、大きな喜びや楽しさを味わうことができ、集団の望ましい人間関係を育成することのできるスポーツである。
- エ 9人制バレーボールやミニバレーボール等、学校体育以外の場面でも仲間づくり、健康づくりの一環として広く社会で親しまれているスポーツである。

(2) 生徒から見た特性

- ア 長くラリーが続いたときに楽しさを感じている。
- イ チームで協力してパスやレシーブをつないだり、得点を決めたりしたときに楽しさを感じている。
- ウ スパイクを打ったり、いろいろな種類のサービスに挑戦したり、難しい技に挑むことに楽しさを感じている。

3 単元の学習目標

- (1) 互いに協力しながら、主体的にゲームや練習に取り組み、バレーボールの楽しさを味わうことができる。
- (2) 学習の決まりを守り、健康や安全に留意して学習することができる。
- (3) 課題を意識した練習やゲームを行うことができる。
- (4) 基礎的・基本的技能を身に付けるとともに、挑戦したい技にチャレンジし、それを生かしてゲームを楽しむことができる。
- (5) ルールや技能についての知識を理解することができる。

4 単元の学習計画及び評価規準

時間	学 習 計 画	評 価 規 準
1 2	オリエンテーション ・ 学習の見通しや約束事の理解 ・ 用具の準備の仕方 ・ グループ編成 ・ 試しのゲーム	・ バレーボールに興味関心を持ち、これからの学習に見通しをもつことができる。 ・ 互いに協力しながら、用具の準備やグループ編成に積極的に取り組むことができる。 ・ 学習の見通しやバレーボールの用具の扱い方について理解することができる。
3 4	課題解決学習 「個人的技能を中心に」 ・ オーバーハンドパス ・ アンダーハンドパス	・ ルールや学習のきまりを守り、安全に留意して練習やゲームができる。 ・ 仲間と協力して、励まし合いながら公正な態度で練習やゲームをすることができる。

5 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> サービス スパイク ブロック 	<ul style="list-style-type: none"> 個人の能力を分析し、能力に応じた課題を設定することができる。 個人の課題解決を目指して、練習の方法を工夫することができる。
6		<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な技能が身に付いている。 バレーボールの個人的技能について、その名称やポイントが理解できる。
7	課題解決学習 「集団的スキルを中心として」	<ul style="list-style-type: none"> ルールや学習のきまりを守り、安全に留意して練習やゲームができる。
8	<ul style="list-style-type: none"> レシーブ ポジショニング 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と協力し、励まし合いながら公正な態度で練習やゲームをすることができる。
9	<ul style="list-style-type: none"> パス攻撃 3段攻撃 	<ul style="list-style-type: none"> チームの能力を分析し、能力に応じた課題を設定することができる。
10		<ul style="list-style-type: none"> ゲームの結果から、作戦やルールを工夫して、次のゲームに生かすことができる。
11	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 個人的スキルを使い、練習やゲームを通して集団的スキルを高めたゲームができる。 バレーボールのプレイに関するルールやゲームの進め方がわかる。
12	<ul style="list-style-type: none"> まとめのゲーム (対抗戦, 総当たり戦) 反省と評価 	<ul style="list-style-type: none"> 安全に留意して、仲間と協力してゲームを行うことができる。 チームの能力を分析し、チームに応じた作戦を工夫できる。 これまで身に付けてきたスキルを発揮できる。

5 本時の実際

(1) 題材名 「バレーボール」

(2) 学習目標

- ア お互いに協力して、意欲的に練習やゲームに取り組むことができる。
- イ 身に付けたスキルを、ゲームの中で生かすことができる。

(3) 授業設計の視点

- ア 生徒が主体的な学習を行うために、授業の進め方や学習の見通しをもたせる。そのためのオリエンテーションや学習材の工夫を行う。
- イ 毎時間、自己評価による自分の課題発見を行わせるとともに、他者評価に取り入れながら、ともに高め合っていく場面を設定していく。
- ウ 準備運動も、バレーボールの単元にあったものを行わせる。単元前半は一斉に行うが、後半では音楽に合わせてバレーボールに必要な運動を自ら考えて行うようにする。
- エ ゲームでは、バレーボールの基礎的・基本的スキルであるオーバーハンドパス・アンダーハンドパス・サービス等をチェックするカードを用意し、ゲームを行っていない生徒に記録させる。ゲーム終了後に、そのチェックカードを活用して課題を発見させる。
- オ 前時のゲームで発見した課題の解決方法を次時まで考えてくるよう指示し、課題別練習の工夫を促す。
- カ 課題別練習では、生徒が互いに教え合う活動を促す資料を準備し、教師も積極的な支援に心がける。
- キ いろいろな技に挑戦する練習を工夫させ、より高度な試合を展開できるようにし、「次はこうしてみよう」という意欲や思考面の伸長も促したい。

(4) 授業の展開 (5 / 1 2)

過程	時間	学習活動	指導の留意点と評価 (は評価項目)
導入	10	1 用具の準備をする。 2 準備運動・補強運動, ランニング, 基本運動を行う。 3 あいさつと健康観察を行う。 4 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 意欲的に練習やゲームに取り組み, これまで身に付けた技能をゲームに生かそう。 </div> 5 自分の課題と練習内容を確認する。	1 準備と場の安全の確認をする。 2 前時までを振り返り, お互いに動きを確認しながら準備運動や補強運動を行わせる。 3 健康観察を確実にし, 生徒の心身の状況を把握する。 4 本時の目標を示し, 確認させる。 5 前時に立てた自分の課題をもとに, 課題別のグループを確認させる。
展開	15 20	6 課題別練習を行う。 ・ パス練習 ・ スパイク練習 ・ サーブ練習 7 ゲームを行う。	6 同じ課題を選んだ仲間と, 協力して練習を行わせる。 ・ 安全に留意して活動できるように支援する。 ・ 練習のための資料を準備する。 ・ お互いに教え合う活動を促す。 協力して意欲的に行うことができたか。 (関心・意欲・態度) 課題解決を目指して, 練習の方法を工夫することができる。(思考・判断) 7 練習の成果を確認するゲームを行わせる。 ・ ゲームの様子を観察し, よいプレーは賞讃する。 ・ ゲーム中は相互にチェックカードの項目に従ってゲームを観察させる。 ・ 気づいたところは生徒同士声を掛け合わせる。 練習した内容がゲームの中で生かしているか。 (運動の技能)
終末	5	8 整理運動を行う。 9 自己評価を行い, 次時の自分の課題を把握する。 10 次時の確認を行い, あいさつをする。	8 しっかり整理運動を行わせる。 9 ・ ゲーム記録をもとに, 自己評価を行わせ, 次時の自分の課題を記録させる。 ・ 自分の課題解決のための練習方法を考えてくるよう指示する。 10 けが等の確認をし, 元気にあいさつをさせる。